



【令和7年度避難所関係担当者全国説明会】 新物資システム（B-PLo）を活用した 備蓄物資の管理について



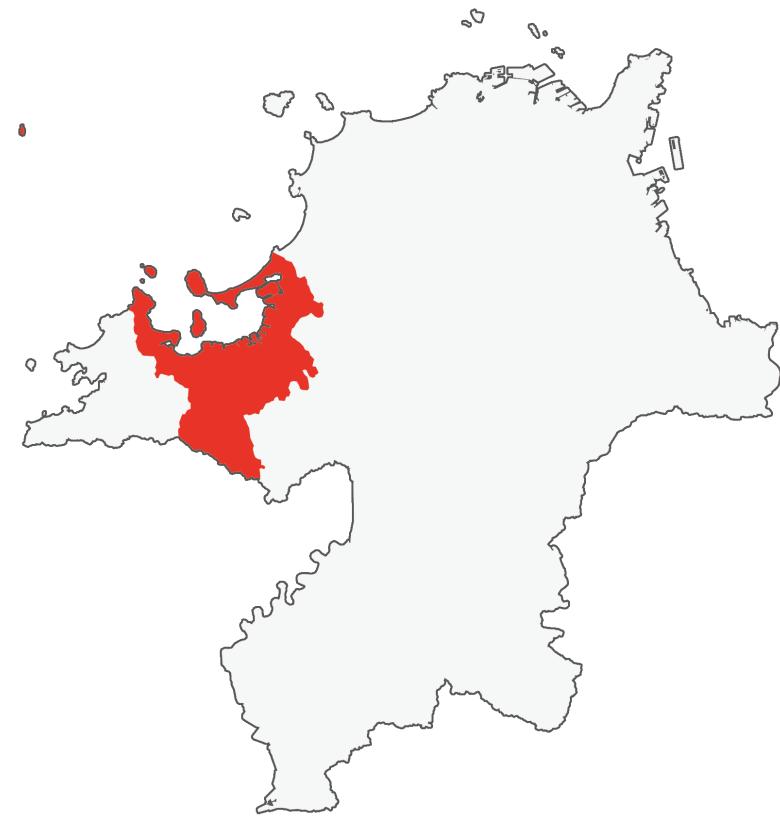
福岡市役所 市民局 地域防災課 中村 優宏

世帯数：905,014世帯

人口：1,670,636人

面積：343.47km²

行政区：7区



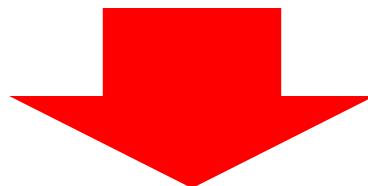
<防災面の特徴>

- ・地震発生確率Sランクの警固断層がある
- ・政令指定都市として唯一、一級河川がない
- ・九州市長会防災部会事務局

公的備蓄の状況（R7.10.1時点）

＜想定避難者数の考え方＞

福岡県が平成24年3月に実施した防災アセスメント調査結果に基づき、
福岡市に最も影響を及ぼすと考えられる警固断層南東部中央下部を震源とする地震が発生した場合の想定最大避難者数を約25,000人、居宅で生活可能な者のうち、食料等の入手が困難な在宅避難者を、過去の災害事例を踏まえて5,000人と算出し、合計で約30,000人と想定。



**在宅避難者5千人を含めた、
3万人の3食3日分となる27万食を備蓄**

また、食料のほか、生活必需品や避難所運営資機材も備蓄



市HP

男女のニーズの違い等、男女双方の視点や性的マイナリティ、高齢者、障がい者等に十分配慮し、避難所運営に必要となる食料、生活必需品、資機材を備蓄している。

食料



水、パン、レトルト米の基礎的食料に加え、高齢者、乳幼児及び食物アレルギーを有する避難者に対応したお粥、乳児用ミルクなど

生活必需品



携帯トイレ、簡易トイレ、毛布、生理用品、紙おむつ、哺乳瓶、口腔衛生用品、入浴代替品、着圧ソックスなど、発災直後に必要となる生活必需品

避難所運営資機材



避難所用テントや間仕切り、発電機、投光器、カセットコンロ、懐中電灯、ブルーシートなど、発災直後に必要となる資機材や、感染症対策物資

食料や生活必需品

発災後すぐに使用できるように避難所となる公民館等（約230箇所）に分散備蓄をし、残りは月隈収蔵庫で一括保管をしている。

＜備蓄割合＞

公民館等：月隈収蔵庫 = 2 : 8



月隈収蔵庫

避難所運営資機材

各小学校区に設置している防災倉庫に分散備蓄している。



校区防災倉庫

新物資システム（B-PLo）を積極的に活用している理由

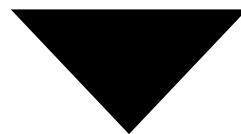
昨年度までは、平時の物資管理や災害時の物資システムの運用に課題があつた。

平時

- 備蓄数量等をExcelで管理しており、データ更新に時間を要していた。
- リアルタイムの情報共有がしづらかった。

災害時

- 物資システムを使ったことがある職員が限られていて、システム運用に不安がある。
- 日頃からシステムを使っていない。



- ・物資管理は、B-PLoを使って、システム管理すれば、効率的になるのでは！
- ・訓練やイベントで物資を搬出するときも、B-PLoを使ったら、システムを扱う機会が増えるのでは！

新物資システム（B-PLo）を活用した物資管理

① 月隈収蔵庫の在庫管理及び有効活用物資の報告 等

○ 在庫管理

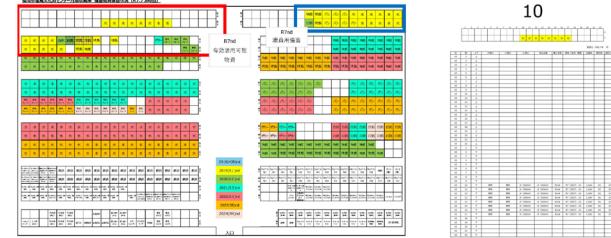
物資の在庫管理はB-PLoを活用している。

○ 有効活用物資を搬出するときの報告（次頁以降に説明）

賞味期限が近づいた食料を有効活用するときの報告について、B-PLoを活用している。

○ ロケーションマップの積極的活用

倉庫内のレイアウトや在庫管理表をロケーションマップに添付し、誰が入っても倉庫内のが分かるようにしている。



② 校区防災倉庫の在庫管理及びロケーションマップの活用

○ 在庫管理

物資の在庫管理はB-PLoを活用している。

○ ロケーションマップの積極的活用

施設内の防災倉庫設置場所や保管資機材を添付しており、防災倉庫の資機材を迅速に活用できるようにしている。



月隈収蔵庫の有効活用物資を搬出するときの報告

令和6年度まで



① 【区→本庁】

公的備蓄担当に、在庫状況を電話やメールで確認する

② 【本庁→区】

Excelデータで在庫状況を確認し、有効活用可能な物資を伝える

③ 【区→本庁】

搬出完了後に、公的備蓄担当に報告する

④ 【本庁】

Excelデータで管理している在庫状況を更新する

月隈収蔵庫の有効活用物資を搬出するときの報告

令和7年度から

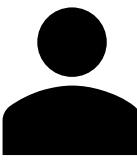


区防災担当課

①【区→本庁】

月隈収蔵庫の在庫を確認して、搬出予定物資を入力する
(『棚卸機能』と『要請情報登録機能』を活用)

災害時→避難所運営職員



市民局防災・危機管理部

②【本庁→区】

搬出予定物資を把握し、在庫状況を確認し、搬出物資を決定する
(『要請把握機能』、『配分計画機能』、『輸送機能』を活用)

災害時→市（区）災対本部



区防災担当課

③【区→本庁】

搬出完了後に、公的備蓄担当に報告する
(『到着予定物資機能』を活用)

災害時→避難所運営職員

備蓄を活用するためには

備蓄物資は、ただ購入して保管することが目的ではない。

いざという時に、すぐに輸送して、避難所などで正しく使うことが目的だと考える。

保管



輸送



活用



はやく輸送するために

物資調達・輸送チーム

- 他都市で発生した大規模災害で、物資調達・輸送業務の現場が混乱し、避難所に十分な物資が届かなかった教訓から、本市では平成30年度に局横断的な機能別チームとして「物資調達・輸送チーム」を立ち上げた。
- 物資業務やマニュアルに関する研修、月隈倉庫の運用研修、システム操作訓練など、適宜チーム内の研修や訓練を行っている。



物資輸送訓練

九州市長会防災部会

- 九州地区内における大規模災害発生時に、相互協力が円滑に行えるよう連携強化を図ることを目的に、協力内容、要領等について、陸上自衛隊西部方面隊と九州市長会とで協定を締結した。
- 令和5年度より、九州市長会防災部会と陸上自衛隊などで共同し、即応支援訓練を実施している。
- 九州市長会構成市全市(119市)の備蓄状況を集約したリストを更新し、全市で共有しており、令和7年度からはB-PLoの登録品目に統一している。



即応支援訓練

正しく使用するために

防災訓練等での物資活用

- 発災直後に、市職員が派遣できない可能性も考えられるため、住民主体の防災訓練で避難所運営資機材等を積極的に活用していただいている。
- 令和7年8月に、内閣府主催の「避難生活支援リーダー・サポーター」研修を福岡市で実施し、備蓄物資の活用方法を検討しました。



福岡市防災訓練
@玄界島



避難生活支援リーダー/
サポーター研修

資機材の使い方動画を公開

- 地域住民や避難所運営職員等から、「備蓄品の使い方が分からない」という意見があがっていた。
- 防災倉庫に備蓄している資機材や、国や企業から支援予定の物資の使い方の動画を作成し、令和7年度から市SNSで公開した。
- 公開した動画は、市職員や自主防災組織等に周知をし、訓練や研修で活用している。



公開中の動画

TKB の取組み

- トイレカーなどを全区に導入
- キッチンカー事業者等と連携強化
- 簡易ベッドを避難所へ新たに配備



